

長野一泊ツアー

戊亥芳秀（会員）

次の目的地小諸に向かった。

2018年11月19日（月）8時40分新宿から20人の参加者を乗せてバスは出発した。上田の戦没画学生慰霊美術館「無言館」、小諸「懐古園」、佐久の「橘倉酒造」を巡る1泊2日の旅だ。

前日までぐずついていた天気も、三芳サーブスエリアで休憩を終え9時40分に出発したところから晴れ始めた。1時間後横川サーブスエリアで再度休憩を取り、11時50分に上田菅平インターを降り、塩田の館「北条庵」で昼食。塩平の高台からの絶景を眺めながら、東京の2倍の量はあると思われる名物のお蕎麦に舌鼓を打ち、近くの「無言館」へと向かった。ここで私たちを待たせてくれた井出会員と合流、戦争に散っていった画学生の絵画だけを集めた世界でも珍しい美術館の数々の作品を堪能し、

小諸城の中核部分が公園として整備された小諸城址「懐古園」に到着したのは4時前で、大急ぎで井出さんの案内で園内を回る。まず「小山敬三美術館」で、係官が付きっきりで丁寧な説明をしてくれ、小諸出身の小山敬



三画伯の得意とする数々の「浅間山」や「城」シリーズなどの作品を堪能することができた。また、藤村記念館では島崎藤村の遺墨、遺品並びに関係資料などを拝観し、氏の人となりを知ることができた。しかし、何よりも庄巻だったのは園内の紅葉の素晴らしさで、写真撮影に時間を忘れ駆け足で列を追う人もいたほどだった。

宿泊は近くの「中棚荘」で、藤村の「千曲川旅情の詩」の一節にある「千曲川いざよふ波の岸近き宿にのぼりつ 濁り酒濁れる飲みて……」の岸近き宿は「中棚荘」を詠ったもののこのと。53段もある階段を上がり、リングゴの浮いた風情のある温泉につかり夕食の宴となった。和気あいあい歓談に花が咲き大いに盛り上がった1日となった。

翌朝9時過ぎに最後の目的地「橘倉酒造」（佐久市）に向かった。元禄時代から続く酒蔵は、井出さんのご実家で、孫文や中江兆民など多くの有名人が残した書画が残っており、井出さん



ご自身による説明に全員熱心に耳を傾けた。大きな酒樽のふたから作られた丸テーブルで弁当を食し、売店で甘酒やお酒などのお土産を購入後、立派な門の前で集合写真を撮ってからバスに乗り込み、12時半過ぎに一路帰路に着いた。

錦秋の長野ツアーは幸い好天に恵まれ、全員けがや病気による脱落者もなく無事に出発地の新宿に戻り、矢野会長の解散のご挨拶で終了した。